

音楽科学習指導案

1 日 時 平成 年 月 日 () ~ 月 日 () 全6時間

2 学年・組 第 学年 組 (名)

3 場 所 音楽室

4 題 材 「魅力発見！こととリコーダーで音楽づくり」

5 題材の目標

「春の海」の曲の構造を理解して聴き、それらや即興的な表現を生かし問いと答えや反復、変化のあるA-B-Aの音楽をつくる活動を通して、楽曲の特徴や演奏のよさを理解する。

6 本題材と学習指導要領のかかわり

- ・指導事項 A表現(3)音楽づくり ア・イ, B鑑賞(1)イ
- 〔共通事項〕 ア(ア)音色・旋律・速度 (イ)問いと答え・反復・変化

7 題材設定の意図

(1) 題材について

本題材では、〔共通事項〕にある音楽を形づくっている要素を要とし、鑑賞と音楽づくりの関連を重視した学習を進める。具体的には、「春の海」の曲の構造を理解して聴いた後、箏とリコーダーを使い様々な発想をもって即興的に表現する学習を経て、音楽の仕組みを生かし見通しをもって音楽をつくる活動へ、その後、再度「春の海」を鑑賞し、楽曲の特徴や演奏のよさを理解するという関連を図る。

第1時の鑑賞の活動では、「春の海」を、楽曲の構成や演奏の仕方、楽器の音の動きなどを感じ取りながら聴く。その際、拡大楽譜を提示することで、箏と尺八の掛け合いや、反復、旋律・速度の変化に気付き、音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くことができるようにしたい。

第2時から第5時までの音楽づくりの活動では、鑑賞の活動で学んだ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かし、箏と、尺八の代替楽器とするリコーダーを使って音楽をつくる。このうち、第2時・第3時では、学習指導要領における音楽づくりの指導事項アに相当する、音楽づくりの素地となる「即興的に表現する学習」を取り入れる。箏を使って自由に弦をはじいたり、全ての弦をすべらせたり、左手で弦を押さえたりして、箏が出せる様々な音を探る活動を行う。さらに、箏とリコーダーを使って、自分の工夫した音で会話したり、友だちの工夫した音と組み合わせたりしていろいろ試すことで、音をつくる面白さや楽しさに気付くことができるようにしたい。第4時・第5時では、三人組または四人組で旋律をつくり、問いと答えや反復、変化のあるA-B-Aの音楽をつくり、発表する。このとき、第2時・第3時における、即興的な表現で一人ひとりが工夫した音を活用しながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくることができるようにしたい。

第6時は、音楽づくりで培った力を生かし、再び鑑賞する活動を行う。十分に音楽づくりの経験をした後に聴くことで、はじめの鑑賞のときと比べ、日本の伝統楽器である箏と尺八の音色の美しさ、二つの楽器による掛け合い、反復、旋律・速度の変化をより聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さをより感じ取ることができるように考える。

このように、鑑賞と音楽づくりを関連付けて学習を進めることで、主体的・創造的に取り組む力の育成を目指したい。また、発達の段階に応じた学習の積み重ねが、音楽と生活との関わりに関心をもち、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むことにつながると考える。

(2) 題材の構造図

「魅力発見！こととリコーダーで音楽づくり」

題材の目標：「春の海」の曲の構造を理解して聴き、それらや即興的な表現を生かし問いと答えや反復、変化のあるA-B-Aの音楽をつくる活動を通して、楽曲の特徴や演奏のよさを理解する。(全6時間)
…題材を通して指導する、〔共通事項〕に示された音楽を形づくっている要素

「春の海」の魅力を見つけよう。

第1時

音色

旋律

速度

問いと答え

反復

変化

鑑賞1H

<感じたこと>

- ・正月によく聴く、日本らしい音楽だね。
- ・海がおだやかな感じがする。
- ・途中でにぎやかになったよ。
- ・会話しているみたい。
- ・またおだやかな感じにもどったね。

<気付いたこと>

- ・箏と尺八の音色が聴こえるね。
- ・ゆるやかな旋律がくり返されているよ。(反復)
- ・速度が速くなったね。(変化)
- ・箏と尺八が問いと答えになっているよ。
- ・はじめと同じ旋律にもどったよ。(A-B-A)

箏の音色にもっとふれたいな。

～鑑賞の活動で学んだことを生かして、音楽づくりの活動へ～

○即興的に表現する学習

こととリコーダーを使って、様々な音を探ろう。

第2時

音楽づくり2H

②箏の様々な音を探る。

③箏とリコーダーで、Aの音楽をつくるための発想をもつ。

第3時

- ・箏は、弦のはじき方や押さえ方で音色が変わって面白いね。
- ・全部の弦をすべらせると日本らしくて楽しいね。(旋律)
- ・自分の工夫した音を使って友だちと音で会話してみよう。(問いと答え)
- ・自分の工夫した音をくり返してみよう。(反復) ・友だちの音と組み合わせよう。

自分たちだけで音楽をつくることができそうだね。

●まとまりのある音楽をつくる学習

自分たちでA-B-Aの音楽をつくろう。

第4時

音楽づくり2H

第5時

④三人組または四人組でBの音楽をつくる。⑤終わり方を考え、A-B-Aの音楽を発表する。

- ・Aと違う旋律にしよう。
- ・Bの部分は、速度を変えてみよう。(変化)
- ・掛け合いを増やしてみよう。
- ・入り方を変えてみよう。(変化)
- ・終わりは一人ずつ音を減らしていくと、静かに終わる感じになるね。

自分たちで見つけた音楽の仕組みを生かして、音楽をつくることができたね。

～音楽づくりで培った力を生かして、再び鑑賞の活動へ～

「春の海」の魅力を紹介しよう。

第6時

鑑賞1H

- ・箏と尺八のそれぞれの音色がはっきりと聴き取れるようになったよ。
- ・Aの部分とBの部分で旋律・速度の変化などがあって面白いね。
- ・箏と尺八の掛け合い(問いと答え)がはっきりとわかって面白いな。
- ・同じ曲でも、違う楽器で演奏すると曲の雰囲気が変わるね。
- ・作曲者は、はじめの部分でおだやかな海をイメージしたから、速度をゆっくりしたのかな。

はじめの鑑賞のときより、「春の海」の魅力に気付くことができたよ。

8 教材について

「春の海」 宮城道雄 作曲

1929（昭和4）年作曲。瀬戸内海を訪れた時に、眼の见えない作曲者が感じ取った海辺の印象を表現している。箏と尺八の二重奏曲。A-B-A（緩・急・緩）という三部形式で成り立っている。Aの部分は、春ののどかな海辺やゆるやかな波の動き、かもめの声などを描写したおだやかな音楽になっている。Bの部分は、陽気な舟歌と春霞ののどかさを巧みにおりませた急速な音楽である。箏が語りかけると尺八が合いの手を入れるというように、二つの楽器が対話する。その後、Aの部分が再現され、のどかな気分の中で音楽が閉じられる。日本の伝統楽器である箏と尺八の音色の美しさ、問いと答え、反復、旋律・速度の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りやすい教材である。

9 題材の評価規準及び評価の視点

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
音楽入り	○	○	○	
鑑賞	○			○
題材の評価規準	曲想とその変化などの特徴、いろいろな音楽表現に興味・関心をもち、鑑賞の学習や即興的に表現する学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、即興的な表現や音を音楽に構成していくことを工夫し、どのように音楽をつくるかについて見通しをもっている。	音楽の仕組みを生かすなどの基礎的な技能を身に付けて、音を音楽に構成している。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想とその変化などの特徴を感じ取ったり、楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさを理解したりして、味わって聴いている。
評価の視点	① 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 ② 鑑賞の活動で学んだ箏のいろいろな音楽表現に興味・関心をもち、即興的に表現する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、箏とリコーダーによるいろいろな音楽表現を生かし、どのようにAの音楽をつくるかについて発想をもっている。 ② 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくるBの音楽やその方法などについて自分の考えや見通しをもっている。	① 鑑賞及び前時までの音楽づくりの活動で学んだ、問いと答え・反復・変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってA-B-Aの音楽をつくっている。	① 音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。 ② 鑑賞及び音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、A-B-Aの曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。

10 指導と評価の計画（全6時間）

	○研究テーマにせまるための 主な学習活動	 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
第1次 1	<ねらい> 「春の海」の楽曲の構造を理解して聴くことができるようにする。(鑑賞：第1時) <教材> 「春の海」 [共通事項] ア (ア) 音色・旋律・速度 (イ) 問いと答え・反復・変化	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>*聴くポイントを変えて何回も曲を聴くことにより、音楽を形づくっている要素である音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り、そのよさを感じ取ることができるようにする。</p> </div>	【アー①】 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 (聴いている様子の観察・発言) 【エー①】 音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。 (聴いている様子の観察・発言・学習カード)
第2次 4	<ねらい> ・鑑賞の活動で学んだ箏のいろいろな音楽表現に興味・関心をもち、即興的な表現に主体的に取り組むとともに、箏とリコーダーによるいろいろな音楽表現を生かし、どのようにAの音楽をつくるかについて発想をもつことができるようにする。(即興的に表現する学習：第2時、第3時) ・鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだことを生かし、つくるBの音楽やその方法などについて自分の考えや見通しをもち、A-B-Aの音楽をつくることができるようにする。 (まとまりのある音楽をつくる学習：第4時、第5時) <教材> (参考教材)「春の海」 [共通事項] ア (ア) 音色・旋律・速度 (イ) 問いと答え・反復・変化	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>*奏法による音色の違いや、問いと答え、反復、旋律・速度の変化などによる、いろいろな音楽表現を知ること、音や音楽をつくる面白さや楽しさに気付くことができるようにする。</p> </div>	【アー②】 鑑賞の活動で学んだ箏のいろいろな音楽表現に興味・関心をもち、即興的な表現に主体的に取り組もうとしている。 (つくっている様子の観察・発言・学習カード) 【イー①】 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、箏とリコーダーによるいろいろな音楽表現を生かし、どのようにAの音楽をつくるかについて発想をもっている。 (つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・学習カード)
2 3	○箏の様々な音を探る。 ○箏とリコーダーを使って様々な音を探り、Aの音楽をつくるための発想をもつ。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>*鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、箏とリコーダーを使ってどのようにAの音楽をつくるかについて発想をもつことができるようにする。</p> </div>	(つくっている様子の観察・発言・学習カード)

4	○音楽の仕組みを生かし、B の音楽をつくる。	*鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、Bの音楽をつくることができるようにする。	【イー②】 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくるBの音楽やその方法などについて自分の考えや見通しをもっている。 (つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・学習カード)
5	○終わり方を考え、A-B-A の音楽をつくり発表する。	*鑑賞及び前時までの音楽づくりの活動で学んだ、問いと答え・反復・変化などの音楽の仕組みを生かすことにより、見通しをもってA-B-Aの音楽をつくることができるようにする。	【ウー①】 鑑賞及び前時までの音楽づくりの活動で学んだ、問いと答え・反復・変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってA-B-Aの音楽をつくっている。 (つくっている様子の観察・演奏の聴取・学習カード)

第3次 1

<ねらい>
鑑賞及び音楽づくりの活動で培った力を生かし、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴くことができるようにする。(鑑賞：第6時)

<教材>
「春の海」
[共通事項]
ア (ア) 音色・旋律・速度 (イ) 問いと答え・反復・変化

6	○もう一度「春の海」を聴き、曲の魅力を紹介する。 (紹介文の例) 「春の海」は、箏と尺八で演奏されます。二つの楽器の音色が日本らしくて落ち着いた感じがします。はじめは、箏のゆるやかな旋律がくり返され、海がおだやかな感じがします。途中で速度が速くなり、箏と尺八が交互に演奏されて、会話をしているようです。その後、またはじめの部分にもどり、海がまたおだやかになった感じがします。宮城道雄は、はじめの部分でおだやかな海をイメージしたから、速度をゆっくりしたのだと思います。この、箏と尺八の音色や掛け合い、二つの楽器の旋律の変化を楽しんで聴いてください。	*何回か曲を聴くことにより、音楽を形づくっている要素である音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を理解することができるようにする。 *①使われている楽器、②音楽を形づくっている要素、③作曲者の思いなどから紹介文を書くことにより、曲の特徴や演奏のよさを伝えることができるようにする。	【エー②】 鑑賞及び音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、A-B-Aの曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。 (聴いている様子の観察・発言・紹介文)
---	---	--	--

1 1 本時の学習（1／6時）

- (1) 目標 ・ 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組む。
 ・ 音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴く。

(2) 展開

学習活動 「 」発問 ・ 子どもの反応	*支援 ○留意点 ■本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
1 本時のめあての確認をする。	*題材の流れを提示することにより，学習の見通しをもつことができるようにする。	
「春の海」を聴き，曲の魅力を見つけよう。		
2 曲を聴いて，感じたことや気付いたことを交流する。 「どのような感じがしましたか。」 ・ 正月によく聴く，日本らしい音楽だね。 ・ 海がおだやかな感じがする。 ・ 途中でにぎやかになったよ。 ・ またおだやかな感じにもどったね。 「音楽のどこからそう感じましたか。」 ・ 箏と尺八の音色が聴こえたよ。 ・ 箏のゆるやかな旋律がくり返されているよ。(反復) ・ 速度が速くなったね。(変化) ・ 箏と尺八が掛け合いをしているよ。(問いと答え) ・ はじめと同じ旋律にもどったよ。(A-B-A)	*感じたことを話し合い，音楽のどこからそう感じたのかをもう一度聴き返すことにより，音楽を形づくっている要素と関連させることができるようにする。 ○感じたことや気付いたことを，分けて板書する。 *拡大楽譜を提示することにより，掛け合いや反復，旋律・速度の変化に気付くことができるようにする。 ○〔共通事項〕カード(音楽を形づくっている要素が書かれたカード)を提示する。 *聴くポイントを変えて何回も曲を聴くことにより，音楽を形づくっている要素である音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り，そのよさを感じ取ることができるようにする。	【アー①】 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 (聴いている様子の観察・発言)
3 作曲者について知る。	*宮城道雄の経歴，曲ができたきっかけなどを知ることで，作曲者の思いにせまることができるようにする。	【エー①】 音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。
4 次時の予告をする。 「次時からは，箏とリコーダーを使ってA-B-Aの音楽をつくっていきましょう。」	○学習したことを，学習カードに書く。 *箏とリコーダーを使ってA-B-Aの音楽をつくることを伝えることで，次時からの音楽づくりに見通しをもつことができるようにする。	(聴いている様子の観察・発言・学習カード)

(3) 評価活動の実際

【音楽への関心・意欲・態度】(1/6時)

評価の視点とその具体の姿	
○評価の視点 【ア-①】 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。	
○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・楽曲全体にわたる曲想や特徴が聴き取りにくい子どもには、友だちの意見を参考にしたり、指導者が声をかけたりして、曲の特徴に気付くことができるようにする。	○質的に高まった状況 ・曲のよさを感じながら聴いたり、発言したりする活動に意欲的に取り組んでいる。
○具体的な評価方法 ・楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に進んで取り組んでいるかどうかを、聴いている様子の観察・発言から見取る。	

【鑑賞の能力】(1/6時)

評価の視点とその具体の姿	
○評価の視点 【エ-①】 音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。	
○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・音楽を形づくっている要素を聴き取りにくい子どもには、〔共通事項〕カードの掲示を見て、どれにあてはまるか考えるように助言する。 ・学習カードに書くことができにくい子どもには、板書を参考にしたり、音楽を形づくっている要素を用いて書いたりするように助言する。	○質的に高まった状況 ・感じたことや気付いたことについて、音楽を形づくっている要素を用いて、積極的に発言している。 ・音楽を形づくっている要素を的確に用い、学習カードに書いている。
○具体的な評価方法 ・感じたことや気付いたことを、音楽を形づくっている要素と関連付けて考えられているかどうかを、聴いている様子の観察、発言、学習カードから見取る。	

(4) 板書計画

海の情景	「春の海」を聴き、曲の魅力を見つけよう。		作曲者の写真	題材の学習の流れ  鑑賞 音楽 づくり 
	「春の海」 宮城道雄 作曲			
A		B		箏と尺八の写真
感じたこと	気付いたこと	感じたこと	気付いたこと	
A の楽譜		B の楽譜		

(5) 活動の場

黒板	
机, いす	

1 1 本時の学習（2 / 6時）

(1) 目標 鑑賞の活動で学んだ箏のいろいろな音楽表現に興味・関心をもち、即興的に表現する学習に主体的に取り組む。

(2) 展開

学習活動 「 」発問 ・子どもの反応	*支援 ○留意点 ■本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 本時のめあての確認をする。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">箏を使って、様々な音を探ろう。</p> <p>2 箏を使った即興的な表現を楽しむ。 「箏を自由に弾いてみて、箏の様々な音を探しましょう。」 ・全部の弦をすべらせると日本らしくて楽しいね。 ・箏は、弦のはじき方や押さえ方で音色が変わって面白いね。</p> <p>3 探した音を、全体で交流する。 「どんな音を探したのか、音でみんなに伝えましょう。」 ・高い音だけで弾いてみたよ。 ・4本の弦をくり返し弾いてみたよ。 ・左手も使うと、音の感じが変わるね。 ・リズムを細かくすると、感じが変わるね。</p> <p>4 グループで交流する。 「工夫した音を使って、友だちと音で会話したり、組み合わせたりしてみよう。」 ・友だちの音に答えてみると、音楽になってきたよ。 ・組み合わせると、音が重なって面白いね。</p> <p>5 次時の予告をする。 「次時は、箏とリコーダーを使って、Aの音楽をつくりますよ。」</p>	<p>*指で弾くときと、爪を使うときとを比べることで、音色の違いに気付くことができるようにする。</p> <p>○爪の付け方、柱は動かさない、柱の右側で音を出すなど、最小限のルールを伝えるようにする。</p> <p>○箏一面につき三人（または二人）でいろいろと試すことを伝える。</p> <p>*自由に弦をはじいたり、全ての弦をすべらせたり、左手を使ったりしていろいろ試すことにより、一つの楽器で様々な音をつくることに気付くようにする。</p> <p>*教師が「シ・シ・」と伴奏し、一人ひとりが演奏することで、それぞれが見つけた音のよさを聴き合うことができるようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">*奏法による音色の違いや、問いと答え、反復、旋律・速度の変化などによる、いろいろな音楽表現を知ることで、音や音楽をつくる面白さや楽しさに気付くことができるようにする。</p> <p>○三人組または四人組になり、そのうち一人は、「シ・シ・」とベースの伴奏をくり返し、二人または三人で会話したり組み合わせたりすることを伝える。</p> <p>*友だちのつくった音をよく聴いて音で会話したり組み合わせたりすることで、音を音楽にすることができるようにする。</p> <p>*何グループか発表することで、つくった音楽のよさや面白さを全体で交流することができるようにする。</p> <p>*どのような音を見つけたのかを、学習カードに書き留めておくことで、次時に生かすことができるようにする。</p>	<p>【ア-②】</p> <p>鑑賞の活動で学んだ箏のいろいろな音楽表現に興味・関心をもち、即興的に表現する学習に主体的に取り組んでいる。</p> <p>(つくっている様子の観察・発言・学習カード)</p>

(3) 評価活動の実際

【音楽への関心・意欲・態度】(2/6時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点 【ア-②】 鑑賞の活動で学んだ箏のいろいろな音楽表現に興味・関心をもち、即興的に表現する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	
↑	↓
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏のいろいろな音楽表現に気付くことができにくい子どもには、指導者による奏法のヒント(全ての弦をすべらせてみよう、左手で弦を押してみようなど)やグループの友だちの意見を参考にしたり、友だちのつくった音を聴いて真似したりするように助言する。 	<p>○質的に高まった状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奏法による音色の違いや、問いと答え、反復、旋律・速度の変化などによって生み出されるよさや面白さを感じ取り、様々な音を出そうと積極的に試みている。 ・自分から進んで友だちに働きかけ、相手を意識してよりよい音を出そうとしている。
<p>○具体的な評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏のいろいろな音楽表現に興味・関心をもち、様々な音を探りながら主体的に取り組んでいるかどうかを、つくっている様子の観察・発言・学習カードから見取る。 	

(4) 板書計画

箏の写真

☆爪の付け方
 ☆柱は動かさない
 ☆柱の右側で音を出す

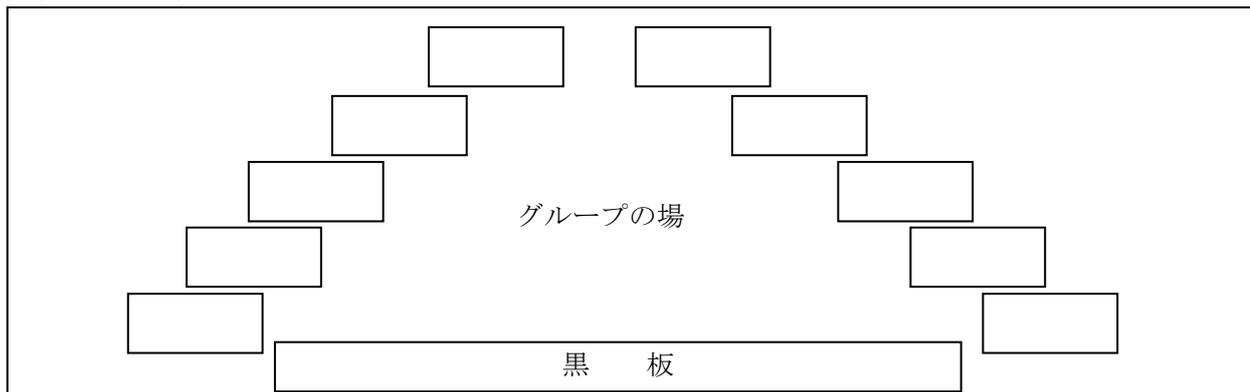
箏を使って、様々な音を探ろう。

箏の音階

箏の読み方

子どもたちが見つけた音
 (図や言葉で)

(5) 活動の場



1 1 本時の学習 (3 / 6 時)

- (1) 目標 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、箏とリコーダーによるいろいろな音楽表現を生かし、どのようにAの音楽をつくるかについて発想をもつ。
- (2) 展開

学習活動 「 」発問 ・子どもの反応	*支援 ○留意点 ■本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 リコーダーを使った即興的な表現を楽しむ。 「リコーダーを使って出せる音を探しましょう。」 ・高い音だけで表してみよう。 ・三つの音で表してみよう。 ・リズムを細かくしてみよう。</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>○リコーダーは「ミファラシレミファ」の音階を使って音をつくることを伝える。 *リコーダーを使って出せる音をいろいろと試すことで、様々な音楽表現ができることに気付くようにする。</p>	
<p>箏とリコーダーの掛け合いを工夫し、Aの音楽をつくろう。</p>		
<p>3 掛け合いの音楽をつくるために、箏とリコーダーを、どのように重ねたり組み合わせたりすればよいか話し合う。 「会話をしているようにするために、箏とリコーダーを、どのように重ねたり組み合わせたりすればよいでしょう。」 ・箏から始めて、同じリズムでリコーダーが答えるようにしたらどうか。 ・細かいリズムに変えてみてもいいね。 ・箏が長い旋律をつくって、リコーダーが短い旋律で答えると面白そう。 ・重ね方をいろいろ変えてみたら楽しそうだね。</p>	<p>○三人または四人のうち一人が箏ベースを担当し、二人または三人で箏とリコーダーの掛け合いをすることを確認する。 *教師の例示を見ることで、音楽のつくり方に見通しをもつことができるようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">*鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、箏とリコーダーを使ってどのようにAの音楽をつくるかについて発想をもつことができるようにする。</p>	
<p>4 三人組または四人組で音を重ねたり組み合わせたりして、Aの音楽をつくる。 「グループで重ね方や組み合わせ方を考えて、Aの音楽をつくりましょう。」 ・相手の音をよく聴いて音楽をつくろう。 ・○○さんの音、本当にお話しているみたいだね。</p>	<p>*グループ用の楽譜のつくり方を確認することにより、グループ活動がスムーズにできるようにする。 *役割を交代し、全てのパートを経験してからよいと思ったものを取り入れることで、グループでAの音楽をつくることができるようにする。</p>	<p>【イー①】 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、箏とリコーダーによるいろいろな音楽表現を生かし、どのようにAの音楽をつくるかについて発想をもっている。</p>
<p>5 つくった音楽を何グループか発表し、全体で聴き合う。 「どのように音を重ねたり組み合わせたりしたのか聴き、どのように感じたのか交流しましょう。」</p>	<p>*途中で、何グループか紹介することにより、音楽をつくる見通しをもつことができるようにする。 *つくった音楽がどのような感じに聴こえたかを交流することにより、つくった音楽のよさを認め合うことができるようにする。</p>	<p>(つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・学習カード)</p>
<p>6 次時の予告をする。 「次は、A-B-Aになる音楽をつくるために、Bの音楽をつくりましょう。」</p>	<p>*どのようにAの音楽をつくったのかを学習カードに書き留めておくことで、次時に生かすことができるようにする。</p>	

(3) 評価活動の実際

【音楽表現の創意工夫】(3/6時)

評価の視点とその具体的姿	
<p>○評価の視点 【イー①】 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、箏とリコーダーによるいろいろな音楽表現を生かし、どのようにAの音楽をつくるかについて発想をもっている。</p>	
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・どのようにAの音楽をつくるかについて発想をもつことができにくい子どもには、友だちの意見を聞いて真似したり、音を出していろいろと試しながら音楽をつくったりするように助言する。</p>	<p>○質的に高まった状況 ・よりよい音楽にしようと、いろいろな音楽表現を試しながら、表現の工夫を深めている。</p>
<p>○具体的な評価方法 ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取りながら、どのようにAの音楽をつくるかについて発想をもっているかどうかを、つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・学習カードから見取る。</p>	

(4) 板書計画

箏とリコーダーの掛け合いを工夫し、Aの音楽をつくろう。

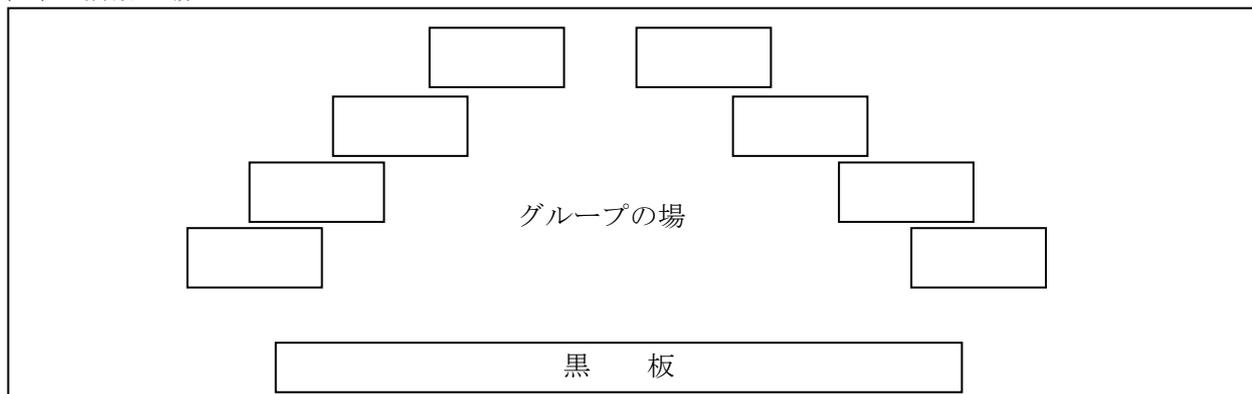
リコーダーで使う音階

箏の音階

(例)

リコーダー		ミレミ・		ミミミレミ・				短い音で ・ファミ
こと	四五六・ ファラシ・		四五五六・ ファララシ		巾為斗十 ミレシラ	九八七六 ファミレシ	五四三・ ラファミ・	
ことベース	一の音で シ・シ・	シ・シ・	シ・シ・	シ・シ・	シ・シ・	シ・シ・	シ・シ・	シ・

(5) 活動の場



1 1 本時の学習（4／6時）

(1) 目標 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる B の音楽やその方法などについて自分の考えや見通しをもつ。

(2) 展開

学習活動 「 」発問 ・子どもの反応	*支援 ○留意点 *本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
1 前時の学習を想起する。 「前時につくった、A の音楽を確認しましょう。」	*前時の学習を想起することにより、学習の見通しをもつことができるようにする。	
2 本時のめあての確認をする。		
A-B-A の音楽をつくるためには、B の音楽でどのような工夫ができるだろう。		
3 A-B-A の音楽をつくるための B の工夫について、全体で話し合う。 「B の音楽で、どのような工夫ができるでしょう。」 ・B は、A より速度が速くなっていたね。 ・箏と尺八の掛け合いがたくさんあって、入れ替わってもいたから、入り方を変えてみたらどうかな。	*「春の海」の B の部分をもう一度聴くことにより、A との違いを聴き取ることができるようにする。 *鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、B の音楽をつくることができるようにする。	
4 音楽の仕組みを生かし、B の音楽を考える。 「グループに分かれて B の音楽を考えましょう。」 ・高い音を多くしてみよう。 ・速度を速くしてみよう。 ・掛け合いを増やしてみよう。 ・少しずつ入るようにしてみよう。 ・掛け合いだけではなくて、同時に弾いてみたらどうかな。	*グループ用の楽譜の作り方を確認することにより、グループ活動がスムーズにできるようにする。 *役割を交代し、全てのパートを経験してからよいと思ったものを取り入れることで、グループで B の音楽をつくることができるようにする。 ○役割は A のときと変わってもよいことを伝える。	【イー②】 鑑賞及び即興的に表現する学習で学んだ、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる B の音楽やその方法などについて自分の考えや見通しをもっている。
5 つくった音楽を何グループか発表し、全体で聴き合う。 「B の音楽でどのような工夫をしたのか聴き、どのように感じたのか交流しましょう。」 ・速度が速くなったから、にぎやかな感じがしたよ。 ・短い会話がたくさん入ったから、聴いていて楽しかったよ。	*途中で、何グループか紹介することにより、音楽をつくる見通しをもつことができるようにする。 *つくった音楽がどのような感じに聴こえたかを交流することにより、つくった音楽のよさを認め合うことができるようにする。	(つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・学習カード)
6 次時の予告をする。 「次時は、終わり方を考えて、発表しましょう。」	*どのように B の音楽をつくったのかを学習カードに書き留めておくことで、次時に生かすことができるようにする。	

1.1 本時の学習（5／6時）

- (1) 目標 鑑賞及び前時までの音楽づくりの活動で学んだ、問いと答え・反復・変化などの曲の仕組みを生かし、見通しをもってA-B-Aの音楽をつくる。
- (2) 展開

学習活動 「 」発問 ・子どもの反応	*支援 ○留意点 ■本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 本時のめあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>終わり方を考え、A-B-Aの音楽を発表しよう。</p> </div> <p>2 終わり方の工夫を全体で話し合う。 「終わる感じにするためには、どのような工夫をしたらよいでしょう。」 ・「春の海」は、だんだんゆっくりになって、箏だけが音を細かくずらして終わっていたよ。 ・一人ずつ音を消していくのも終わる感じがするね。</p> <p>3 グループに分かれて、音楽を仕上げる。 「グループに分かれて最後の練習をし、音楽を仕上げましょう。」 ・お互いのパートをよく聴いて合わせよう。 ・終わりは息をそろえていっせいに終わろう。</p> <p>4 つくった音楽を発表し、全体で聴き合う。 「つくったA-B-Aの音楽を発表しましょう。」 ・Aは、速度をゆっくりして、箏の音を長く、リコーダーは短く答えるようにしました。Bは、速度を速くして、音の高さを変えました。またAにもどり、最後は、だんだん弱くして、一人ずつ音を消していくようにしました。聴いてください。</p> <p>5 次時の予告をする。 「次時は、もう一度『春の海』を聴き、曲の魅力を探しましょう。」</p>	<p>*「春の海」の終わりの部分をもう一度聴くことにより、終わり方の工夫を考えることができるようにする。 *いろいろな終わり方の工夫を試してみることで、発想を広げることができるようにする。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>*鑑賞及び前時までの活動で学んだ、問いと答え・反復・変化などの音楽の仕組みを生かすことにより、見通しをもってA-B-Aの音楽をつくることができるようにする。</p> </div> <p>*発表は録画・録音することにより、後で確かめることができるようにする。 ○AとBの部分でどのように音楽をつくったのかを伝えてから発表するようにする。 *どのような工夫をしたのか、また、つくった音楽がどのような感じに聴こえたかを交流することにより、つくった音楽のよさを認め合うことができるようにする。</p> <p>○どのような工夫をして音楽をつくったのか、また、他のグループの発表を聴いてどのようなことに気付いたのかなどについて、学習カードに書くようにする。</p>	<p>【ウー①】 鑑賞及び前時までの音楽づくりの活動で学んだ、問いと答え・反復・変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってA-B-Aの音楽をつくっている。 (つくっている様子の観察・演奏の聴取・学習カード)</p>

(3) 評価活動の実際

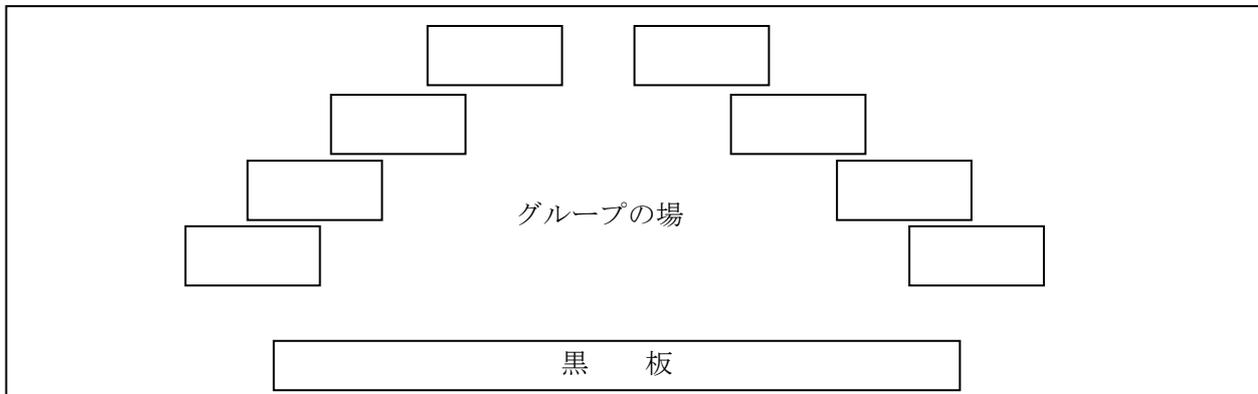
【音楽表現の技能】(5/6時)

評価の視点とその具体の姿	
○評価の視点 【ウー①】 鑑賞及び前時までの音楽づくりの活動で学んだ、問いと答え・反復・変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってA-B-Aの音楽をつくっている。	
○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・問いと答え・反復・変化などの音楽の仕組みを生かしてつくることのできにくい子どもには、板書を参考にしたり、友だちの音をよく聴いたりして、音楽をつくるように助言する。	○質的に高まった状況 ・問いと答え・反復・変化などの音楽の仕組みを効果的に使い、全体の構成を考えてAとBの変化がよくわかる音楽をつくっている。
○具体的な評価方法 ・問いと答え・反復・変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってA-B-Aの音楽をつくっているかどうかを、つくっている様子の観察・演奏の聴取・学習カードから見取る。	

(4) 板書計画

終わり方を考え、A-B-Aの音楽を発表しよう。		
<p><終わり方の工夫></p> <ul style="list-style-type: none">★全員でいっせいに音を出して終わる。★少しずつ音を減らす。★音を弱くする。★少しずつゆっくりする。	各グループの楽譜	発表の仕方
		聴くポイント

(5) 活動の場



1 1 本時の学習（6 / 6時）

- (1) 目標 鑑賞及び音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、A-B-Aの曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く。
- (2) 展開

学習活動 「 」発問 ・児童の反応	*支援 ○留意点 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 前時の学習を想起する。 「前時につくった、自分たちの音楽を視聴しましょう。」 ・グループでA-B-Aの音楽をつくることのできたね。</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>*前時に録画したものを視聴することにより、自分たちのつくった音楽を確かめることができるようにする。</p>	
<p>もう一度「春の海」を聴き、みんなが感じた曲の魅力を紹介しよう。</p>		
<p>3 もう一度「春の海」聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 「もう一度聴いて、感じたことや気付いたことを話し合ひましょう。」 ・箏と尺八のそれぞれの音色がはっきりと聴き取れるようになったよ。 ・Aの部分とBの部分で旋律・速度の変化があつて面白いね。 ・箏と尺八の掛け合い（問いと答え）がはっきりとわかつて面白いな。</p>	<p>*何回か曲を聴くことにより、音楽を形づくっている要素である音色・旋律・速度・反復・変化に気付くことができるようにする。</p> <p>*第1時に書いた紹介文と比べることにより、音楽づくりの活動を通して身に付いた力を実感することができるようにする。</p> <p>*演奏している映像を観ることにより、視覚的に曲のよさを聴き取り、感じ取ることができるようにする。</p>	
<p>4 曲の魅力を伝える紹介文を書く。 「音楽を形づくっている要素を使って、紹介文を書きましょう。」</p>	<p>*例文を提示することにより、紹介文の書き方の参考になるようにする。</p>	
<p>(紹介文の例) 「春の海」は、箏と尺八で演奏されます。2つの楽器の音色が日本らしくて落ち着いた感じがします。はじめは、箏のゆるやかな旋律がくり返され、海がおだやかな感じがします。途中で速度が速くなり、箏と尺八が交互に演奏されて、会話をしているようです。その後、またはじめの部分にもどり、海がまたおだやかになった感じがします。宮城道雄は、はじめの部分でおだやかな海をイメージしたから、速度をゆっくりしたのだと思います。この、箏と尺八の音色や掛け合い、2つの楽器の旋律の変化を楽しんで聴いてください。</p>	<p>*①使われている楽器、②音楽を形づくっている要素、③作曲者の思いなどから紹介文を書くことにより、曲の特徴や演奏のよさを伝えることができるようにする。</p>	
<p>5 違う楽器で演奏している「春の海」を聴く。 「楽器が変わると、どのような感じがしますか。」 ・同じ曲でも、違う楽器で演奏すると曲の感じが変わるね。 ・おだやか、にぎやか、おだやかな感じがよく出ていたよ。</p>	<p>*ハープとフルートによる「春の海」を聴くことにより、箏と尺八の演奏と似ているところ、違うところに気付くことができるようにする。</p>	<p>【エー②】 鑑賞及び音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、A-B-Aの曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。 (聴いている様子の観察・発言・紹介文)</p>

(3) 評価活動の実際
【鑑賞の能力】(6 / 6時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点 【エー②】 鑑賞及び音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や、音色・旋律・速度・問いと答え・反復・変化の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、A-B-Aの曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。</p>	
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・紹介文に表すことができにくい子どもには、板書や第1時で書いた紹介文を参考にしたり、例文を参考にしたりして書くように助言する。</p>	<p>○質的に高まった状況 ・A-B-Aの曲の特徴を的確にとらえて、音楽を形づくっている要素と、その働きから想像したことや感じ取ったことを具体的に記述している。</p>
<p>○具体的な評価方法 ・曲想とその変化などの特徴や、「音楽を形づくっている要素」の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表したり、A-B-Aの曲の特徴や演奏のよさを理解したりしているかどうかを、聴いている様子の観察・発言・紹介文から見取る。</p>	

(4) 板書計画

もう一度「春の海」を聴き、みんなが感じた曲の魅力を紹介しよう。			
A		B	
感じたこと	気付いたこと	感じたこと	気付いたこと
Aの楽譜		Bの楽譜	
紹介文の例			

(5) 活動の場

<div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 5px;">黒板</div> <div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 20px auto; padding: 5px;">机, いす</div>
